

法隆寺だより

平成22年正月号



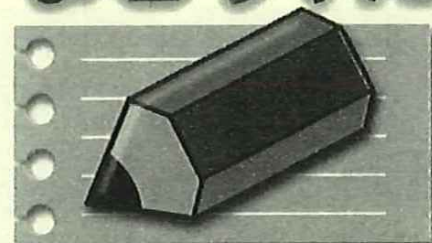
本堂下陣

南無阿弥陀仏…お念佛の元祖 法然上人は、年令も身分も性別も立場も、まして出家・在家・聖者・凡人の区別も差別もなく、お念佛を唱えること、そしてその功德を明確にお示しです。

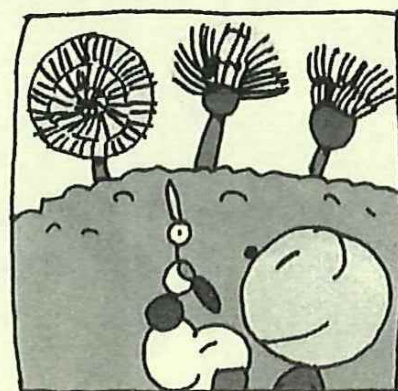
来年はいよいよ、その元祖さま（法然上人）の八百回忌（^{だい}大遠忌）を迎えます。これに先立って、ことしの6月24日には例年の御忘・地蔵祭に併せ、東京・芝の大本山増上寺布教師会の方々が来られ、近隣の浄土宗寺院檀信徒も参加される“お念佛の集い”が、このお寺で開かれます。詳細は別途御案内致しますが、当日は午前中（朝から）の開催を予定しております。どうか、6月24日の行事に就き、今から御予定下さいますよう。

合 掌

なむちゃん



教室



あれこれ質問箱

「お経」ってなあに？

寺だよりを読んでくれているお友だちから、「〇〇ってなんですか？」って質問をもらうことがあります。そこで今年は、その中から一つ選んで、順にお話ししていこうと思います。一回目はお経。お寺さん

がムニヤムニヤ（たぶんみんなにはそう聞こえるかも？）読んでいるの、聞いたことある？ 木魚やカネを鳴らしながら読んでいます。アレがお経。仏教は二千五百年もの昔、インドという国でお

釈迦さまが説いた教えだ。てことは、前にも話したことがあるけど、その教えが書かれているものがお経なんだ。

お釈迦さまは「人が、よりよく、幸せに生きていくため」に、いろいろなことを教えてくれた。でもお釈迦さまの時代には、その教えを文字で紙に書くということとはしなかったんだ。いつでもお釈迦さまから直接聞くことができたからね。

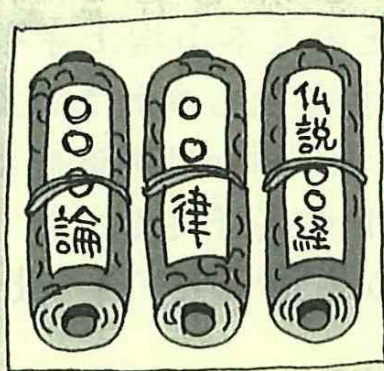
ところがお釈迦さまが亡くなって大変なことになった。だって、もうお話を聞くことができないんだから。

そこで、お弟子さんたちが集まって、お釈迦さまか

みんなで

いつしよに

口伝によって引き継がれていた教えが、何度か開かれた結集を経て、經典として編纂されるようになったのが、お釈迦さまの滅後三、四百年経った頃からと言われている。多くのお経が「如是我聞（私はこのように聞いています）」の書き出しで始まっている点にも、その経緯がうかがえます。



「お経」と一口に言っても実にさまざま。実際には、さとりへ向かうための教えが書かれた「経」、仏教を信仰する者として守るべきル



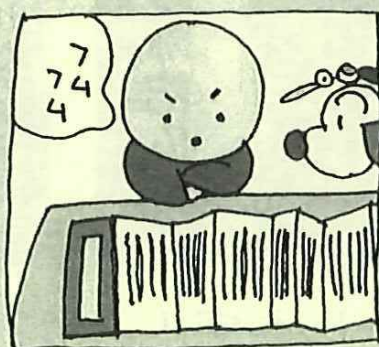
ら開いた話をみんなで思い
出して確認し合おう、とい
うことになった。そしてそ
うした会議(これを「結集」
っていうんだ)が何度か開

かれ、「このままじゃ忘れ
ちゃうかもしれないから紙
に書いて残そう」というこ
とになったんだ。これがお
経のおこり。

もちろん、はじめはイン
ドの言葉で書かれた。それ
が中国へ伝わって、中国の
言葉(漢字)に訳され、さ
らにそれが日本に伝えられ
たんだよ。

「じゃあ、日本に伝わっ
て日本語にされたの？」か
って？ ウン、やさしい日
本語にされたものもあるけ
ど、日本では中国から伝わ
った漢字が通用するから、
そのままで読まれているこ
とが多いんだ。

だから、耳で聞いただけ
じゃあ、どんなことを言っ
ているのかはわからないか
もしれないね。一番いいの
は、お寺さんに尋ねること。
はずかしがらずに質問して
みよう！



ールが書かれた「律」、そし
てそれらの解説書とも言え
る「論」の三つに大別できま
す。さらに、各宗派の宗祖
が書き残した文章なども広
い意味で「お経」と言うこと
ができるでしょう。法要な

どではそれらを織り交ぜて
読まれることが多く、これ
を総称して一般に「お経」と
呼んでいるのです。

「お経は難しくて…」のお
気持ち、ごもっともですが、
やさしい解説書もたくさん
出ています。ちよっと開いて
みると、「仏教って私たちの
生活に密着しているんだ
な」、そんなふうに感じてい
ただけるはずです。

となえましょう お念佛

みんなと一緒に



とき
法要や昼のお齋の様子



お盆施餓鬼会より…
せがきえ



ことしも宜しくお願い致します